



# 全国私教連養護教職員連絡会 ニュース

2017年11月発行 第6号



秋の冷え込みで保健室は大忙しではありませんか。みなさまは、お元気にお過ごしでしょうか。

年々増える不登校生徒。1998年に国連子どもの権利委員会が日本政府に「児童が、高度に競争的な教育制度のストレスにさらされていること及びその結果として余暇、運動、休息の時間が欠如していることにより、発達障害にさらされていることについて、条約の原則及び規定に照らし懸念する。更に登校拒否の事例がかなりの数にのぼることを懸念する。」と勧告しています。が、事態は改善するどころか益々悪化しています。子どものいのちと健康を守り発達を保障するという重要な役割を担い日々教育的な仕事をしている保健室と養護教諭の役割をいまこそ発信していく必要があるのではないのでしょうか。

## 山口湯田全私研 7月29日～31日 成功！

全体会オープニングは、山陽高校生徒の和太鼓演奏。記念講演は、「助け・助けられることこそ教育」というテーマでNPO法人「抱樸」理事長であり牧師の奥田知志さんのお話を聞きました。「伴走支援」という言葉や「自分自身も息子が不登校になって『助けて』と言えた日が助かった日なのです。」と奥田さんの言葉に胸が熱くなり、全体会の締めくくりは朝鮮学校の生徒たちによる演舞にも感動で胸がいっぱいになりました。相手の「助けて」を受けとめられる存在であるためには、私達自身も「助けて」と言える関係性をつくるのが大切であると実感しました。

## 養護教職員交流会は、10名の参加

愛知・埼玉・熊本・大阪の養護教諭に加えて特別支援教育分科会や不登校分科会の運営委員の先生方も参加してくださり、子どものからだ感覚を育てる実践などもお聞きすることができました。

楽しくてあっという間に時間が過ぎてしまいました。

## 全私研17分科会（体育・健康・食育）の報告

17分科会は「体育・健康・食育」と領域を拡げ、本年度は養護教諭2名が運営委員を担当しての再スタート。世界的に、睡眠時間がいちばん短い日本の子どもたちのからだに心には、重大な異変が起こっています。昔はなかった、あるいは少なかったような症状が爆発的に増加傾向にあります。アトピー、花粉症、アナフィラキシー、腰痛、貧血、冷え性、低体温、起立性調節障害、過敏性大腸炎、月経困難症などの健康問題に加えて、うつ、不登校、ひきこもり、自殺などの精神的な問題も増加。OECD（経済協力開発機構）の調査では「孤独を感じる（いつも寂しいと思う）」という項目で、参加国中でも日本が断トツの一位です。年々増え続けるこれらの健康問題に対して、対処療法的な狭い視点に留まるのではなく、その背景や原因にも目を向けて、広い視点で子どもたちの健康・発達課題を学校教育の中でどう実践していくのか、学びあい、来年度以後の方向性も確認することを分科会目標としました。参加者は、7府県から17名。体育・家庭科・英語科・事務職員・栄養職員・養護教諭・大学教員と教科や校種を超えた参加者のおかげで“子どもを丸ごととらえる”討論がより深まった3日間でした。

### 分科会の概要報告

学校で見える子どもたちの実態を出し合い問題意識を交流。「運動が苦手な生徒が多い」「手を付けない」「顔面から転倒する」「猫背」「姿勢が悪い」「手と足が同時に出てしまう」「まっすぐ走れない」「足裏の感覚がない」「足の指をしっかりと使えない」「階段の上り下りができない」など、様々な子どもの実態が出されました。「人工妊娠中絶」「レイプ」「オーバードーズ（薬物大量摂取）」など、いのちに関わる問題も出されました。

### レポート報告・討論の柱

- ① 子どもたちの健康状態をどのように把握するか。
- ② 子どもたちの健康課題をどのように教育活動に繋げていけばよいか。
- ③ 分科会で学んだ成果と課題を明らかにして、次年度にどうつなげていくか。

## 「生徒自身によるからだの実感調査（運動器）の報告から」（埼玉）

埼玉私学中高協会学校保健・学校カウンセリング研究会で『生徒の体が硬い』ロコモティブシンドロームって本当だろうか」と運動器について焦点を当てて調査。調査協力校は、埼玉県内中学13校の中学2年生850人と高校19校高校2年生1552人。調査項目は、「姿勢が悪い」「授業中座っているのが身体的に辛い」「腰が痛い」「疲れたと感じる」「転ぶ」「首や肩が凝っている」

調査結果では、「姿勢が悪い」と言われた経験が「よくある」「たまにある」合わせて7割の生徒が姿勢が悪いこと、「歩いていて転ぶ 18%」など予想以上の結果。姿勢の崩れが様々な不調につながっていること、「よい姿勢」の育成の不足、背筋力の弱さ、歩くことが不足していることを指摘し、教育活動において、からだづくりに取り組む必要性を強調されました。

## 「命に向き合い、食を作ってきた～時代を振り返って～」（埼玉 自由の森学園）

### 「食生活部33年の歩みと「食生活講座」のスタート～食生活部を外へ発信する～」

自由の森学園食生活部は、最近様々なマスコミでも取り上げられています。学食の歴史と本年度食生活部が新たな試みとして取り組んでいる「食生活講座」について教えていただきました。講座開設のお知らせ文（一部抜粋）は、「食べることは生きること」、私たちは、「“食べ物”を通して生徒や自由の森を訪れる方の生活（食生活）を支えたい」という思いで日々ご飯づくりをしています。今回、この食生活講座では、私たちの日々のご飯づくりに対する思いを直接知ってもらい、食堂のご飯づくりと一緒に実践し、みなさんの「食べる力（自炊する）」や「選ぶ力（生産者を知る）」がより豊かになるような時間を作っていきたいと考えています。様々な食べもの、様々な情報に溢れる現在、「自分で選び、自分で食べていく力」というのは、普段の暮らしの中で大きな財産になるのではないのでしょうか。この講座を通して、日々の食生活を振り返り、また自分自身のこれからの食生活を一緒に作っていきませんか。

有機農法や自然農法栽培で旬の野菜を生産者の方と顔の見える関係で仕入れ、調味料も化学調味料や危険な食品添加物の入っていないものを厳選。単なる学食ではなく、一つ一つの工程がいのちを守る活動であり教育活動です。「何を食べるかではなく、どのような工程でどのように作っているか、安心して提供できることを大切にしている。」と。「自分の体質を知り、食事を吟味し、リズム正しい生活を送る。ストレスを軽減できるよう工夫し、良い睡眠をとり、自分がいかに恵まれた存在であるかを認識する。それが命を大事にする生き方だと思います。」と報告されました。

## 「心もからだも大切にしあえる学校」（大阪 秋桜）

教職員20名の小さな通信制単位制高校での教育実践の報告です。授業形態は全日制と異なるのですが、様々な課題や困難を抱えている子どもたちと教職員全体で日々関わり、支えあっています。総合学習は、①健康と生②平和と人権③働くことと将来とテーマを決めて、前後期に約5回（2時間/回）3人の教員で担当しています。今回は、主に「健康と性」で取り組んでいるからだの学習について学びあいました。自分の命は、かけがえがなく、いろんな人とつながり支えあって生きていくことを感じられる時間、自分も周りの人も大切にするといいことを選んでいくのは自分自身だからどうやって大切にできるのかを考えられる時間にしたいと担当教員の思いがあふれ、一人一人の生徒と教員の表情が見える報告でした。

## 「自分のからだに向き合うこと～貧血について学ぶ～」（大阪 東海大仰星）

生徒の84%が何らかの部活動に参加しています。全国大会を目指してハードな日々を過ごす子どもたちに自分のからだや食生活について意識させたいとの思いで取り組んでいます。23分科会の資料レポート「高校生の自尊感情を高めるために～思春期講座『いのちのお話』の取り組み～」の取り組みやアストリムを使用しているヘモグロビンチャックの取り組みを紹介。生徒の自尊感情をアップさせながら自分のからだについて興味関心を持ち、「生涯にわたって健康でいたい」「自分を大事にしたい」と思えることを目指しています。

## 分科会の到達点と今後の課題

分科会の在り方を「実態から出発すること」「子どもを丸ごととらえること」「全面発達を目指すこと」を確認しました。日本の子どもたちの健康問題は、個人の問題ではなく社会の問題です。様々な健康課題を学校で教育課題に繋げる実践は、子どもたちの健康実態と逆行するように弱体化しています。かつては、健康文化の創造や地域に根ざした健康教育をめざしてきたものが、教職員の多忙化のもと消えつつあります。健康課題は山積しているのに、総てに取り組むことは難しく、また一つの課題を解決すれば済むわけでもありませんが、課題の一つにこだわり「風を吹かせること」が他の課題にもつながり動いていくことを「風車理論」と言うそうです。今回、教科や職種を超えてつながった参加者同士、子どもたちの発育・発達保障のための分科会の発展をめざすという決意をして、来年の再会を約束しました。

## 山口湯田全私研第17分科会参加者の感想（抜粋）

保健・体育の分野と食育の分野が、そもそも繋がっているものであるということに気づき、視点を変えて討論に参加することができた。この17分科会に参加して報告できたことが非常に嬉しかった。「教科」の枠を超えて、幅広く子どもたちの身体、食生活について考えられたので、私は全私研一番の分科会だったと思う。今年の、このテーマの分科会を、今後傳承していくことが大切なのではないでしょうか。（埼玉）

子どもたちを全面的にとらえて、全体の発達をめざすこと。「健康認識」をキーワードにして、各分野が子供たち、生徒たちに向き合ったとき、ともに支えあい、学びあいながらこの時代を生きていくことができるという感覚がもてました。奥田知志さんの講演とつながったすばらしい話し合いができました。一人ひとり違う生き物。その違いをお互い見る、認め合うことによって、自分も相手もOK!というものを育てていければ、争いのない平和な社会が実現できる。（埼玉）

からだを育てる上で切っても切り離せない体育・健康（養護）・食育の3つが話し合えるという教科会は非常に理に適ったレベルの高いものだったと思います。特に体育教員の問題として、“健康”“食事”についても生徒へ話さなければならぬにもかかわらず、運動以外はわからない、知る、教えてもらえる機会も少ないというのが現状です。この会は（繋がり）全国の教員がやるべき理想の会だと考えました。すばらしい時間をありがとうございました。（埼玉）

どの分科会へ参加するか悩みましたが、自分のいちばん関心のあるところへ参加できてよかったです。「教科を超えて」という言葉に励まされ、来年は是非レポートを書いて参加し、様々な意見をいただきたいと思いました。年ごとにテーマを決め、様々な分野の先生から見る実態について話し合えるのもよいのではないかと思います。（埼玉）

本当に楽しく、有意義な分科会でした。食育、健康であること、性のこと、人権問題、運動、発達、発育など、生きるうえでベースになることは全てつながり、それぞれ違った見方で共通した考え方となっていることにびっくりしました。参加の方全員、やさしくまじめで、生徒を主に感じ、思いやりをしっかりと持っておられることにとっても心があたたかくなりました。（滋賀）

体育・健康・食育それぞれをつかさどる先生方が集い、専門的な話を楽しくおこなうことができたので、大変有意義な時間を過ごすことができました。発言しやすい雰囲気の中、非常に興味のある内容、身体と心の基礎である「生きること」を食事や運動、日々の生活習慣の視点から取り上げ、歩様チェックなどの実技もあり、印象深い2日間でした。（熊本）

初めて参加してもらいましたが、こんなにあたたかい雰囲気であることに驚きました。からだ・食・心・生活・性・人権全てが繋がっていて、もっと学ばないという気持ちが膨らみました。すべては「子どもたちの未来のために」本日学ばせていただいたことを学校内で話し合い、身につけたいと思います。（大阪）

養護教諭、体育、家庭科、英語、数学・・・食堂の職員、いろいろな方が集まった分科会で、各々の方の問題意識を自由に出し合えました。からだをどうやってつくるか、何を食べるかを考えることは、どの人にとっても大事なことで改めて思いました。その大事なことを、どんな学校で学ぶか?となったときに、子どもの自由が保障され、どの子も1人ひとりの大事な存在として扱われ、その子自身が自分のことを決定していく力をつけていける学校が土台にあることが、やはり重要なんだと思います。（大阪）

すべてはつながっているというのが、心から実感できました。それぞれが独立したテーマでの分科会であれば、なかなか見えてこなかったことかもしれないですが、復活したこの分科会の意味は本当に大きいものだと思います。人が人として生きていくのに大切なことは何か。困難を抱えている子どもも、本当は人間らしい生活を欲しているし、それをできなくさせられている現代で苦しんでいるんだと思います。「自分で選んでいく力」これをどうやって育てていくのか、考えていきたいなと思います。（大阪）

### 当面の日程（予定）

11月13日（月）全教養護教員部 文部科学省交渉、国会議員文教委員要請 予定

11月20日（月）全国私教連養護教職員連絡会 文部科学省交渉、国会議員文教委員要請 予定

12月9日（土）～10日（日）全国私教連 私学シンポジウム

1月7・8日全国青年協議会 ウィンターセミナーin仙台

3月 日程未定 東京私教連 養護教職員交流会（全教会館）

# 11月、文部科学省と文教担当国会議員への要請を行います。

これまで文部科学省の私学担当者に「交渉」を3度行ってきましたが、現実的に何も前には進めていない現状です。そこで、3月に世話人で相談した結果、「懇談会」という形式にして、私学における養護教諭の必要性について、本音の部分聞き出していきたいとの話になりました。昨年度に取り組んだアンケートにあった養護教諭の生の声をできるだけ多く文部科学省に伝えたいと考えています。ご意見などいただけたら助かります。

養護教職員も多忙化が進む中で大変ですが、少人数であっても交流会の企画を継続していこうということになりました。学習会テーマなどは、アンケートのご意見を参考にして決めていく予定です。

\*\*\*\*\*

2017年11月20日

文部科学大臣様

全国私立学校教職員組合連合（全国私教連）  
中央執行委員長 永島 民男  
同 養護教職員連絡会  
代表 磯村 悦子

子どもたちのすこやかな成長発達を保障するため  
私立学校における養護教諭配置に関する懇談のお願い

貴職におかれましては日頃から私学振興にご尽力いただき、厚く御礼申し上げます。

私たちは私立学校で養護教諭（職員）として日々生徒のからだと心への対応をしています。

さて学校現場では、30年以上前に注目されたアレルギー疾患、不定愁訴・自律神経のアンバランスさなど子どもたちの「からだのおかしさ」の実態がますます深刻化・多様化し、私立学校もその傾向は顕著です。

養護教諭は上記のような問題に加え、人間関係トラブル・不登校・いじめ・発達障がいなど、子どもたちのつまづきが表面化する様々な問題に対して成長・発達の視点から支援する役割を担っています。また、近年では貧困や虐待などの深刻な要因が重なり、子どもたちの身体と心に深刻な影響が出てくるケースも増加し、学校現場だけでなく医療機関や児童相談所などの関係機関とのネットワークで子どもを見守らなければならない現状のため、多くの養護教諭がその連携の中核を担う役割を果たしています。

このような役割を担うために、公立学校では「標準定数法」で小学校841人、中・高校801人以上の学校に養護教諭複数配置がすすめられており、さらに全教養護教員部では「よりきめ細やかに対応するためには、児童生徒数300人に対して一人の養護教諭の配置が必要」と訴えています。

しかしながら、私立学校での養護教諭の配置は、公立学校に比べ大きく立ち遅れています。

子どもは、私学における養護教諭配置状況の改善にむけて2014年から文科省に対して要求書を提出してまいりましたが、解決の糸口を中々見出すことができずにおります。

つきましては、本年度は下記の項目での懇談を申し入れさせていただきます。

## 記

- ・ 養護教諭配置の公私格差の実態について文科省としてはどのような見解をお持ちでしょうか。  
(2014年以降の私どもが提出した要望書の資料を参照ください。)
- ・ 私立学校養護教諭の配置の実状と学校保健の実態について  
幼稚園・小学校・中学校・高等学校・単位制高等学校・通信制高等学校における養護教諭（職員）の配置および学校保健体制（保健部・保健主事・学校医・学校歯科医・学校薬剤師等）
- ・ 私学における養護教諭の定数の改善策について  
私たちは、全ての学校に正規雇用の養護教諭を置かなければならないと考えています。  
しかし、これまで文科省としては「私学については教育内容に立ち入ることはできない」という理由で私学養護教諭の適正配置を進めるための具体的なイニシアティブをとるとのご回答をいただけていません。そこで、他にどのような改善策があるか相談させていただきたい。
- ・ 全国の私立学校における生徒のいじめ・自殺・不登校の発生件数および実態について
- ・ 全国の私立学校における特別支援教育体制の充実に向けて

以上